

9月入学インタビュー



馳浩元文科相

1人1台のパソコンが利用できる環境を整備する「GIGAスクール構想」の加速を優先させてほしいと言われる。大部分の小中高校は3月以降、対面授業が十分にできておらず、このサポートが重要だ。

私は元々、主に大学では、9月入学は国際的な人材交流を活性化させる有効な選択肢だと考えてきた。大学は制度上、各校の判断で導入できるが進んでいない。

安倍晋三首相は「前広にさまざまな選択肢を検討したい」と述べた。私が本部長の自民党教育再生実行本部で、党政調審議会全体での議論が必要だと提言した結果、9月入学の是非を議論するワーキングチームが立ち上がった。現在、速やかに課題整理を進めていると認識している。

実現を目指すなら、いくつもの省庁が関わり、経済界をはじめとした国民生活全般に影響があり、少なくとも30以上の法改正が必要で、数兆円規模の財政支出を伴う。政治が最初から結論ありきで進めてはならず、国民的な議論が必要だ。国民が十分考える時間を提供する必要がある。

私自身が導入の是非をどう考えるか…。私は国語の教員をしていたが、桜が咲くころに卒業式、入学式をするわが国の伝統は大好きだ。四季折々の季節観と、現在の学校行事や学習計画はぴったり合っている。

新型コロナウイルスの影響で休校が長期化する中、学校の入学や始業の時期を9月にずらす案が急浮上している。学習遅れのリセットや国際化の促進が期待される一方、慎重な意見も相次ぐ。元文部科学相の馳浩衆院議員にインタビューした。

◆
新型コロナウイルスの影響で休校が長引く中、全国の知事らの発言をきっかけに、降って湧いたような9月入学導入論という受け止めだ。知事は自身の思いを発信するだけでなく、各地の教育長、教職員や保護者が今、何を求めているのか、まずは現場の意見を集約してほしい。

今年9月からのスタートか、来年9月からか、それともいつかの9月なのか、やる場合の選択肢は三つある。私のところには教育関係者からさまざまな声が届くが、9割9分は「今やるべきではない」という反対論だ。

特に最終学年の小6、中3、高3に対する学びの保障と入試への不安解消、そして小中学生全員に

国民に考える時間を